



患者さんの精神サポートの基本となる支持的精神療法について

緩和ケアセンター 心療内科医師 福留 克行

緩和ケアチームで精神面のケアを担当している心療内科の福留です。

緩和ケアにおける精神面の問題としては、抑うつや不安などの「気持ちのつらさ」や「せん妄」と呼ばれる意識障害がありますが、当院では心療内科医が主に前者を精神科医が主に後者を担当しています。抑うつや不安が強い場合には、抗不安薬や抗うつ薬などの向精神薬が有効ですが、患者さんの「気持ちのつらさ」に寄り添う支持的なケアが、どの病期においても最も大事だと考えます。支持的なケアとは、「患者さんの言葉に耳を傾けること」、「批判したり、価値判断したりせずに、受容的に接すること」を基本とします。これは精神医療では、支持的精神療法と呼ばれます。精神療法と聞くと、何か難しいことのように感じられるかもしれませんが、治療者が患者に対する基本的な姿勢とも言えます。医療スタッフの皆さんは日々の臨床で自然に行われていることも多いはずですが、患者さんの悲観的な発言に対しては、治療者としてはつい否定してしまいたくなることもあり、受容的に接するということが意外と難しい面もあります。その場合は、一旦その気持ちを受け止めたうえで、そう考える背景を尋ねることで、向き合ってもらえているという安心感が生まれると思います。また、忙しく時間がない時なども、じっくりと聞く姿勢を取りづらい場合もあるでしょう。その時には率直にそのことを伝えて、ゆっくり話を聞ける時間を約束することで、聞こうとしている姿勢を示すことも大事です。

患者さんの満足度向上のために支持的精神療法を参考にして頂ければ幸いです。



腫瘍内科医師 佐藤 栄一

今回の研修会準備を始めた4月は、COVID-19感染症 第4波の入口であり“計画倒れになるのでは？”と一抹の不安が脳裏に浮いていました。しかし、その不安を吹き飛ばすような晴天下で第14回北九州市立医療センター緩和ケア研修会を開催することができました。

今年度の参加者は、抗がん治療を行う上で、そして、高齢者がん患者が増加する昨今、脚光を浴びる整形外科、循環器内科、糖尿病科、病理診断科、歯科の医師が参加しました。また、医師以外は、がんに関係する経験豊富な看護師や管理栄養士も参加しました。さらに長年在宅緩和診療に携わられている矢津 剛先生の熱心なご指導もあり、内容の濃いディスカッションが繰り広げられました。来年度も緩和医療に関わる様々な医療者の参加をお待ちしております。

最後に、院外講師としてご協力いただきました行橋記念病院精神科 執行 正倫先生と矢津内科消化器科クリニック 矢津 剛先生に感謝の意を表します。



当院で新しく採用した医療用麻薬

緩和ケアセンター 麻酔科医師 神代 正臣

がんによる痛みの治療にモルヒネ、オキシコドン、フェンタニルは従来から使われていました。それに加え当院ではヒドロモルフォン、タペンタドール、メサドンを採用しました。痛みの原因、状態に合わせて選択しています。これら医療用麻薬の特徴を紹介します。

各オピオイド系鎮痛薬の特徴

当院での採用	新	新	新
薬剤名	ヒドロモルフォン	タペンタドール	メサドン
剤形	錠剤、注射剤	錠剤	錠剤
効果発現様式	速放剤、徐放剤	徐放剤	徐放剤
代謝	グルクロン酸抱合	グルクロン酸抱合	CYP3A4 CYP2B6
活性代謝産物	H3G	なし	なし
利点	呼吸苦軽減 腎機能低下患者でも 使いやすい	神経障害性疼痛に 効果的 腎機能低下患者 でも使いやすい	他のオピオイド系 鎮痛薬で制御不能な 痛みに効果的 腎機能低下患者 でも使いやすい
欠点	神経刺激作用が 出ることがある	速放剤がない	速放剤がない 重篤な不整脈に注意